

症例:YN 4歳 男

主訴:意識障害

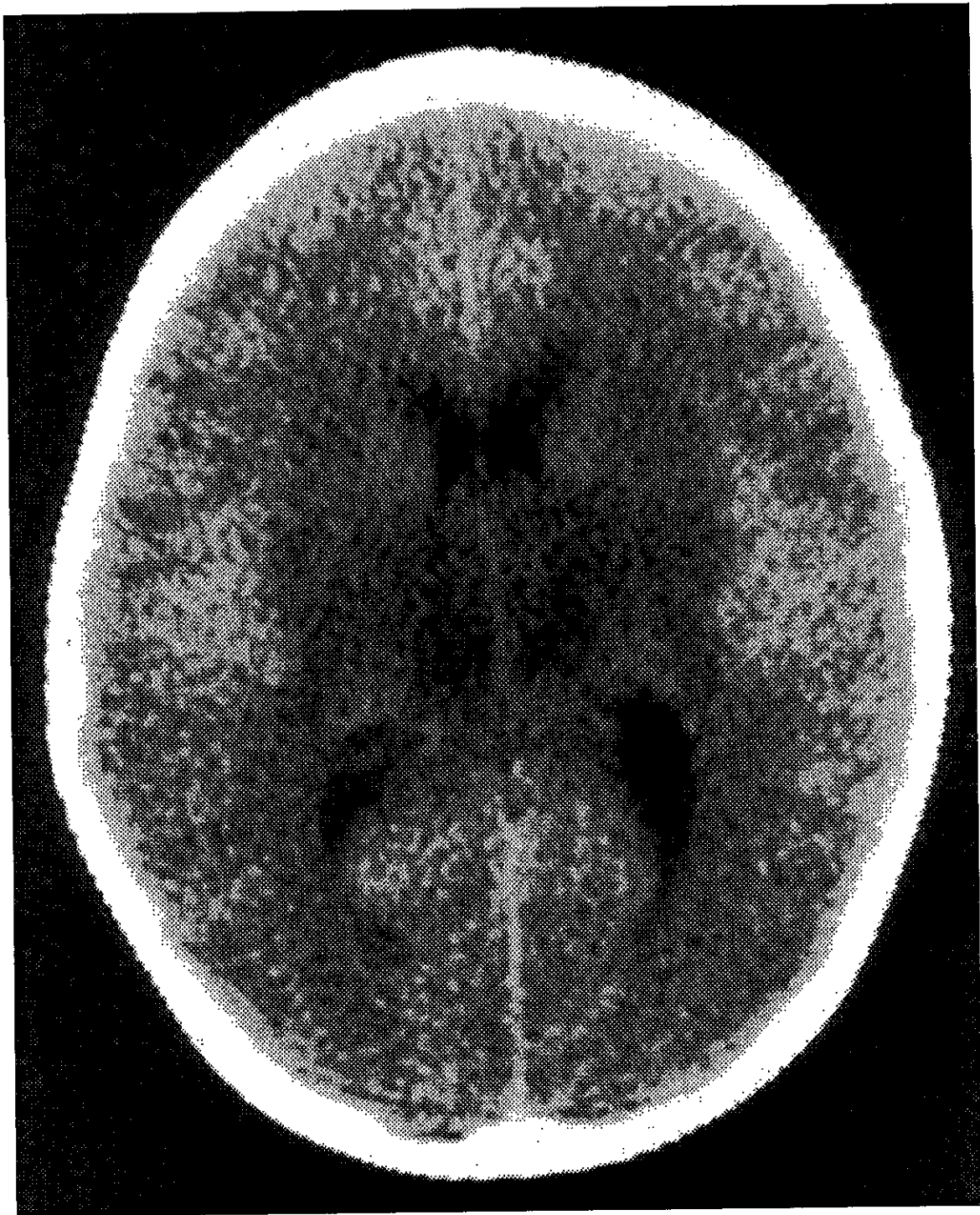
出生歴、家族歴:特記すべきことなし。

既往歴:2歳時熱性けいれん1回

現病歴:平成6年12月28日午前3時30分、38.6°Cの発熱とともに四肢強直けいれん、眼球上転(2-3分間)あり、前日からの咳嗽、鼻汁は続いていた。8時20分A小児科医院受診、気管支炎、熱性けいれんと診断され投薬を受けた。

12月29日午前0時30分頃40°Cの発熱とともに再度四肢強直けいれん、眼球上転、意識混濁あり119番に電話、午前3時01分に市立札幌病院救急部に到着。

現症:意識混濁JCS10、開眼みられるもぼーとしている。「ママ」、「アー」の発語あり。対光反射両眼ともあり、瞳孔両眼とも3mm。5時30分一度眼がさめた。8時0分意識低下JCS30、8時40分瞳孔左右差出現、右6mm、左4mm、9時0分対光反射消失、両瞳孔散大、呼吸停止、気管内挿管施行。9時30分CT室へ移動中に心停止。CPRにて心拍動再開。10時05分の脳CT像で全体的脳浮腫、視床、脳幹の低電位。脳波平坦化。11時53分死亡。



インフルエンザ脳症

(北海道 1994/95～2003/04 10シーズン)

	'94/95	'95/96	'96/97	'97/98	'98/99	'99/00	'00/01	'01/02	'02/03	'03/04	合計
北海道における インフルエンザ の流行	A1 A3 B	A1 A3	A3 B	A3	A3 B	A3 A1	B A1 A3	A1 A3 B	A3 B	A3 B	
症 例	12	14	5	22	11	7	3	15	12	2	103
性(男/女) (性比)	9/3	9/5	3/2	15/7	6/5	3/4	1/2	5/10	7/5	0/2	58/45 (1.3:1)
平均年齢 (歳)	3.1 (1-9)	3.9 (1-10)	5.0 (0-12)	4.5 (1-11)	2.5 (1-4)	3.9 (1-8)	4.9 (2-7)	5.1 (1-9)	5.0 (1-9)	6.5 (1-12)	4.5±2.9
発熱—神経症状 (日)	2.5 (1-6)	2.9 (1-10)	3.2 (2-5)	1.2 (0-3)	0.8 (0-1)	1.1 (0-4)	1.0 (0-2)	1.6 (0-5)	0.5 (0-1)	0.0 (0)	1.6±1.7
転帰											
死亡	6	7	3	7	5	1	0	4	2	0	35(34.0%)
後遺症	3	2	1	6	1	1	0	3	3	0	20(19.4%)
軽快	3	5	1	9	5	5	3	8	7	2	48(46.6%)

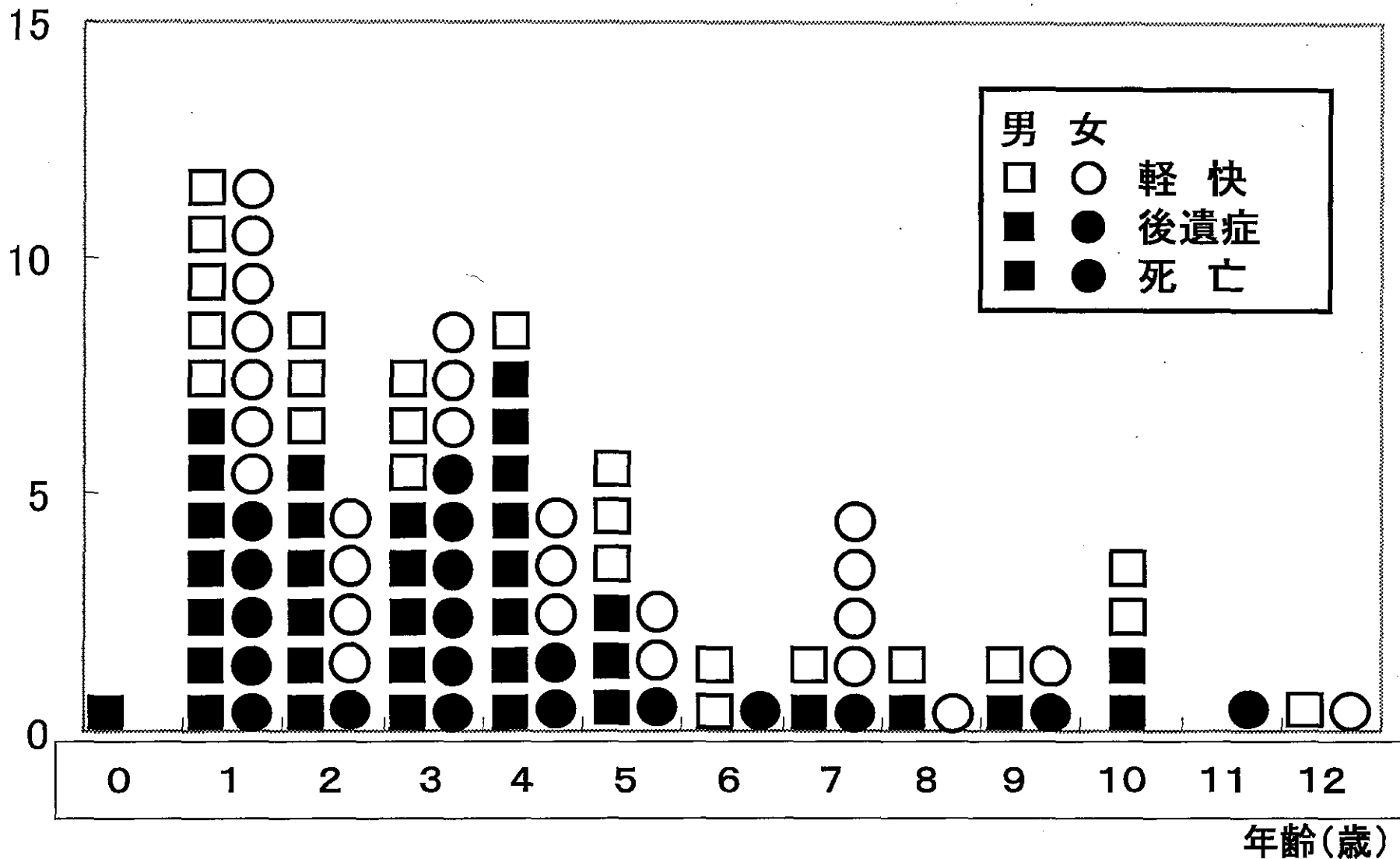
インフルエンザ脳症患者の臨床症状と検査所見 (北海道 1994/95～2003/04 10シーズン)

臨床症状	% (例)	検査所見	% (例/検査数)
発熱	100 (103)	脳波異常	83.5 (66/79)
意識障害	99.0 (102)	脳CT異常	74.5 (70/94)
痙攣	74.8 (77)	脳MRI異常	57.1 (20/35)
咳嗽	48.5 (49)	AST/ALT異常	50.5 (52/103)
鼻汁	37.6 (38)	血糖上昇	49.4 (43/87)
悪心	11.7 (12)	LDH上昇	45.1 (46/102)
頭痛	5.0 (5)	CPK上昇	43.6 (44/101)
疲労感	4.5 (4)	凝固系異常	30.0 (30/100)
		髄液細胞上昇	20.0 (15/75)
		アンモニア上昇	8.5 (8/94)

インフルエンザ脳症発症数 (性別、年齢別、予後別)

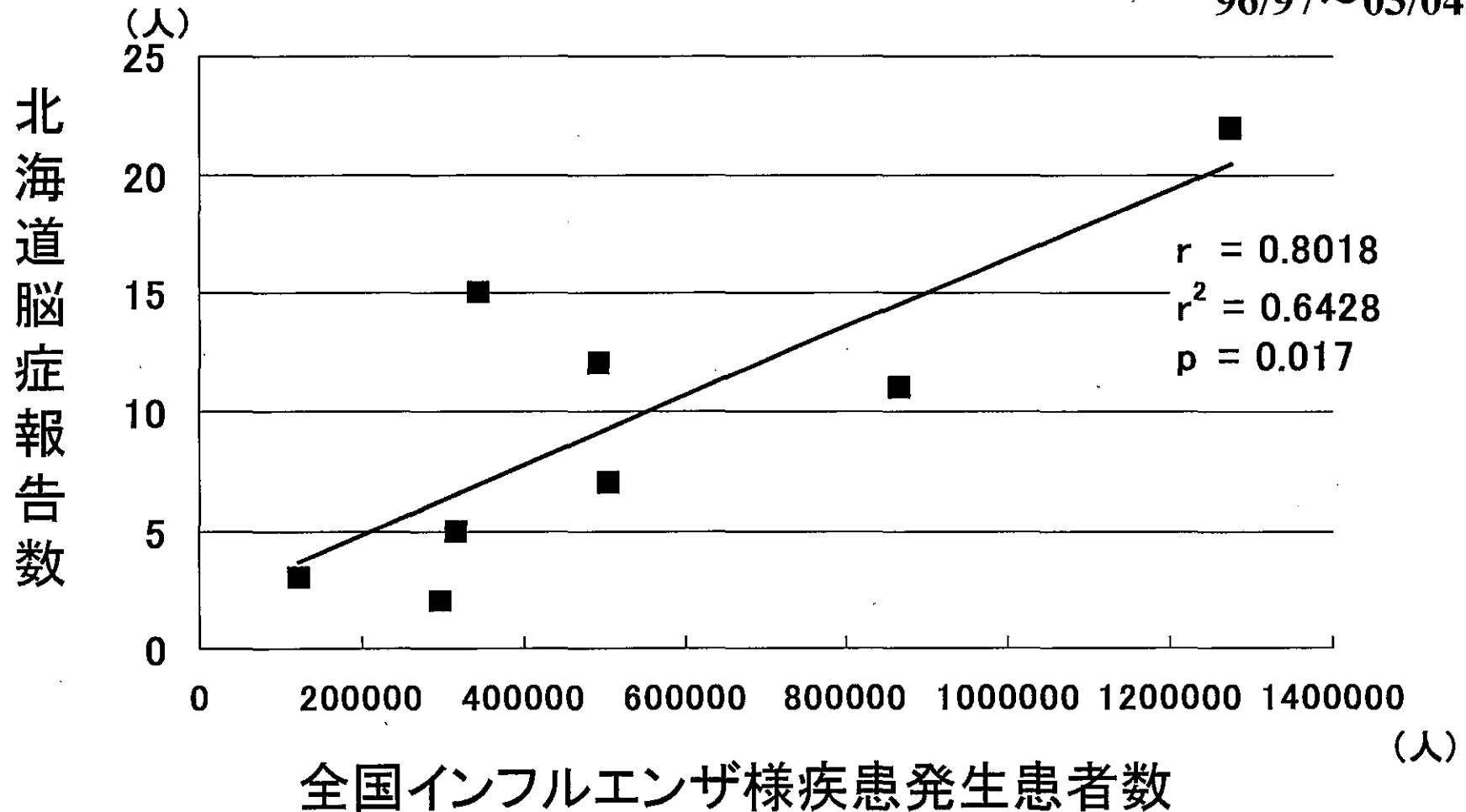
(北海道 1994/95～2003/04 10シーズン)

例数



全国インフルエンザ様疾患発生患者数と 北海道脳症報告数の相関

96/97~03/04



厚生労働省健康局結核感染症課
国立感染症研究所感染症情報センター